令和６年度あきた型学校評価

評価領域	学習指導

重点目標	教師による子どもの見取りに焦点をあて、主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりの実践	P
現状	・単元構想シートを活用した授業づくりや自立活動実態シートを用いた見取りに取り組んでいる。 ・児童生徒の学びに向かう姿を見取る授業提示や見取りの解釈を述べ合う授業研究会の持ち方の工夫が必要である。	
具体的な目標	・チームで取り組む児童生徒の見取りの充実 ・抽出した児童生徒の見取りを基にした主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり	
目標達成のための方策	・見取りに関する職員研修会の実施 ・見取りを基にした学部研究会（ふらっとミーティング）の実施 ・主体的に学びに向かう姿に基づいた授業づくりの積み重ね	
具体的な取組状況	・学部研究会（ふらっとミーティング）による単元構想や授業づくりの取組 ・ふらっと授業参観、提示授業、研究協議の流れによる授業研究会の実施 ・授業づくりのポイントを基にした授業実践	D
達成状況	・ふらっとミーティングにより授業者だけでなくチームで単元構想や授業の検討、改善案、評価を実施できた。 ・ふらっと授業参観は抽出した児童生徒を見取る機会を増やすことにつながった。 ・研究協議では、場面を限定して抽出児童生徒の内面の見取りを協議したことで、深い見取りを共有することができた。	
自己評価	A ・「ふらっと授業参観」「授業研究会」「事後研究会」の流れが定着し、教師の児童生徒の内面を見取る力が向上した。 ・チームで実態を見取ることの成果があらわれてきた。 ・場面を限定して協議したことで、子どもの発信を言動や行動から解釈し、教師の見取る力が付いてきた。	C

↑
評価基準
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A ・話を聞いただけで分かる子どもと分からない子どもがいるなど評価活動は難しい。実態差は大きいが、全員が分かるように実感的に振り返ることが大切である。 ・子どもの見取りについて、それぞれの立場から考え、捉えていくことは非常に大事なことだと感じた。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・見取ったことを対話によって共有することが授業づくりではポイントになった。今後も継続して安心して対話できる場を研究体制の中に位置付けていくことが必要である。 ・抽出した児童生徒の変容の見取りや授業実施後の改善に向けた取組など評価活動を検討し、充実させていく必要がある。	A

評価領域	地域とともにある教育活動

重点目標	交流及び共同学習を計画的、組織的、継続的に行うことを通して、共に学び合う環境を整え、児童生徒の社会性の伸長を図る。	P
現状	・コロナ禍を経て、直接交流する機会が増えてきている。各学部、学級の学習グループでは、地域での学習や交流を再開し始めてきた。 ・令和５年度の小・中学部の居住地校交流実施率は対象者の４３％が希望し、実施した。 ・令和５年度末実施の保護者アンケートでは、「交流の充実」「地域への情報発信」が他の項目と比較すると高くない傾向にあった。「交流の充実」では約１割が「分からない」と回答している。	
具体的な目標	・居住地校交流を希望する児童生徒全員の円滑な実施のための体制の継続と相手校の障害者理解を推進する。 ・各学部、学級の学習グループの学習において、地域での学習や交流を計画的に実施する。	
目標達成のための方策	・障害理解学習の取組を整理して、地域の関係各校に理解推進を図る。 ・交流及び共同学習と併せて、障害理解授業や巡回学校展を実施する。 ・校外へのホームページでの情報発信の他、通信等での校内職員保護者への情報提供を行う。	
具体的な取組状況	・障害理解授業は心のバリアフリー授業と名称を変更して実施した。 ・小・中学部の希望者は可能な限り居住地校交流を実施した。小学部と中学部では２校と学校間交流を計画した。高等部では作業学習や総合的な探求の時間の学習で学校間交流や地域との交流を計画した。	D
達成状況	・居住地校交流は４０％と実施率を維持し、小学部では２校と学校間交流を実施した。 ・中学部では居住地校交流の発展として、２校と学校間交流を実施することができた。 ・秋田市北部、男鹿潟上南秋地区の高等学校５校との交流を全校行事や高等部の学習として実施した。	
自己評価	A ・居住地校交流は高い実施率を維持している。 ・交流及び共同学習や地域での学習について保護者への情報提供ができ、理解が進んでいる。	C

↑
評価基準
↓

Ａ：具体的な活動がなされ目標を達成できた
Ｂ：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
Ｃ：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A ・地域支援だよりアシストの内容が素晴らしい。通常の学校等に向けて、必要な情報をしっかり載せていた。 ・自分が相手を理解することは、実社会では非常に難しいことだが、地域の中で生かしていく取組は非常に良い。 ・心のバリアフリー授業の疑似体験はどのような内容か知りたい。発達障害の特性を他者にどのように伝えるか難しいので、参考にしたい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・目的を明らかにした地域での学習を計画的に実施し、児童生徒の主体的な地域資源の活用を推進する。 ・心のバリアフリー授業や巡回学校展を計画的に実施し、ボランティア講座等を受け入れ、地域と双方向での障害者理解を進める。	A